

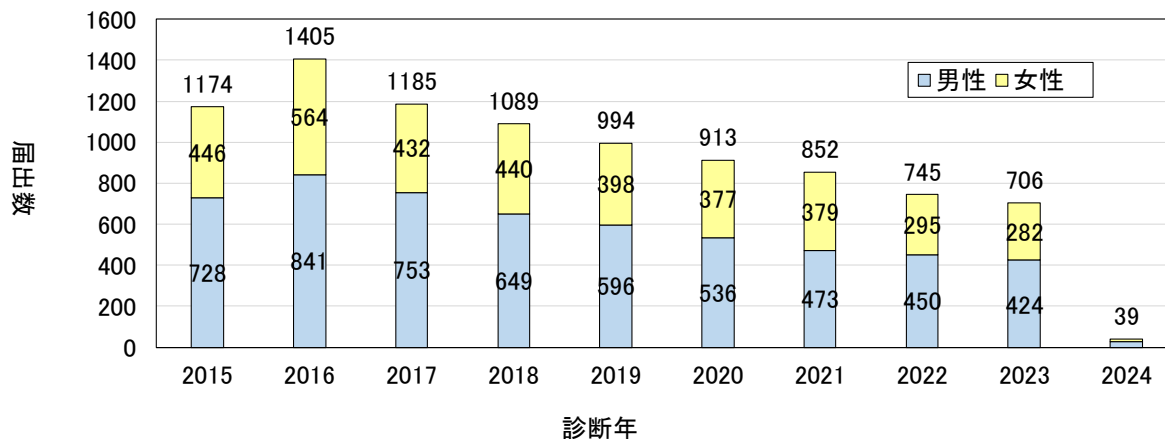
【今週の注目疾患】

《結核》

2024年第2週に県内医療機関から結核の報告が32例あり、2024年累計では39例となった。性別では男性29例、女性10例であり、年代別で多いのは80代が10例、40代および50代がそれぞれ7例ずつであった。

直近10年間において第2週時点における累計が39例を超えたのは2017年（41例）以来である。

図：2015年から2024年第2週までの県内結核報告数



県内における年間の結核累計報告数は2017年から減少傾向にあり、2023年の累計報告数は706例と過去10年間で最少であった（図）。性別では男性424例（60.1%）、女性282例（39.9%）と男性が多かった。年代別では80代以上が197例（27.9%）、70代123例（17.4%）、60代81例（11.3%）と高齢者が多かった。病型別では肺結核299例（42.4%）、無症状病原体保有者242例（34.3%）、その他の結核137例（19.4%）、肺結核及びその他の結核27例（3.8%）、疑似症1例（0.1%）であった。その他の結核で多かったのは結核性胸膜炎71例、結核性リンパ節炎36例、粟粒結核12例であった（複数症状のあるものはそれぞれに計上している）。

結核は、結核菌によって発生するわが国の主要な感染症の一つである。結核菌は主に肺の内部で増えるため、咳、痰、発熱、呼吸困難等、風邪のような症状を呈することが多いが、肺以外の臓器が冒されることもあり、腎臓、リンパ節、骨、脳など身体のあらゆる部分に影響が及ぶことがある。特に、小児では症状が現れにくく、全身に及ぶ重篤な結核につながりやすいため、注意が必要である¹⁾

結核は肺結核が代表的であるが、それ以外にも頸部リンパ節結核、脊椎カリエス、腸結核、腎結核など全身の様々なところに病巣を形成する（肺外結核）。菌が血流により全身に行きわたり（粟粒結核）、髄膜に到達する結核性髄膜炎などもある。現在では、粟粒結核は早期発見により治癒の可能性が高まっているが、髄膜炎は3分の1が死亡し、治っても半数近くは脳に重い後遺症を残すことがある²⁾。

結核の治療は、無症状病原体保有者については、潜在性結核感染症として数か月間薬を服用することで発病を予防する。患者についても、一定期間毎日複数の薬を服用して治療する。不適切な断薬は治療に失敗するばかりでなく、結核菌の薬剤耐性を招く。確実

な治療のため、入院中も退院後も医療従事者が服薬を見守る仕組みをDOTSといい、医療機関と保健所が協力して行う³⁾。また、小児の結核性髄膜炎や粟粒結核の予防にはBCG接種が極めて有効であり、1回の接種で10~15年程度効果が持続すると考えられている。標準的な接種スケジュールは生後5~8か月であり、市町村からの案内に従い接種する⁴⁾

■引用・参考

1)厚生労働省：結核（BCGワクチン）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou03/index.html

2) 公益財団法人結核予防会結核研究所：結核の基礎知識

https://jata.or.jp/about_basic.php

3)公益財団法人結核予防会結核研究所：結核の常識 2023

https://jata.or.jp/dl/pdf/common_sense/2023.pdf

4)厚生労働省：結核とBCGワクチンに関するQ&A

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/bcg/index.html

【新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の発生状況】

2024年第2週の県全体の定点当たり報告数は、前週の7.50人*から増加し、11.41人であった。

地域別では、君津（18.92）、香取（18.33）、印旛（16.58）保健所管内で患者報告数が多かった（図）。

*前週報告時点では7.49人

図：直近5週間の県内COVID-19定点当たり報告数の推移（保健所別）

